

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西
学校名	大阪市立西中学校
学校長名	山岡 良知

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになつた現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一括して出題

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・西中学校では、第3学年 118名

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語A・B、数学A・Bとも全国平均を下回ったが、経年で比較するとほぼ横ばいの結果である。
- ・授業の内容理解については、肯定的な回答が多いが、1日あたりの学習時間が1時間未満の生徒が4割いるとともに、計画を立てて勉強していない生徒が6割弱存在し、家庭での自主的な学習の定着が大きな課題である。また、5割を超える生徒が普段全く読書をしないと回答しており、読書習慣の形成も課題である。
- ・「いじめをやめる」といった心情については、確実に醸成されており良好な結果と言えるが、将来の夢や目標を持っていないという生徒が3割もあり、夢や目標に向かって努力していくという姿勢をさらに身につける必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 全国平均を少し下回っているが、「手紙の書き方を理解して書く」の正答率が18.9ポイント、「語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う」の設問では10.8ポイントも上回っている。しかし、「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考え書く」の設問では12.5ポイント下回っている。「国語の勉強は大切だ」「授業の内容が分かる」という生徒が8割近くに達しており、授業において様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導の充実が図られ成果と言える。

[数学] A・Bとも全国平均を4ポイント以上も下回っており、その中でも「等式を目的に応じて変形することができる」では、16.7ポイントの開きがある。また、「空間における直線と平面の垂直について理解している」についても、12ポイント以上も下回っている。「家で学校の宿題をしていますか」の設問では、約4割がほとんどしていない実態がある。「問題の解き方が分からぬときは、諦めずに色々な方法を考える」の設問では、4割以上が考えずに諦めてしまう傾向にあった。

[理科] 全国平均を6.3ポイント下回っている。特に「背骨のある動物の名称を答える」では、29.2ポイントも下回っている。また、「水上置換方では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する」や「天気図から風力を読み取る」の設問でも13ポイント以上の開きがある。理科の勉強を大切に思っている生徒が6割弱いる反面、その力を育めていない現状がある。

質問紙調査より

本校の生徒像を総括すると「規則正しい生活習慣ができていて、学校の規則を守り、自分も友だちも大切にして、いじめを許さず、みんなで協力して学校生活を楽しんでいる生徒が多い」様子が浮かぶ。しかし、全校平均を下回っている「家庭学習（学校の宿題をする）」、「地域・社会への関心（ニュースを見る）」、「読書習慣」、「自己実現（将来の夢や目標を持つ）」などは、本校の大きな課題である。「家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか」、「今住んでる地域の行事に参加していますか」、なども全国平均を下回っており課題だと考える。また、「朝食を毎日食べる」ことは、生活習慣の基本として学校では朝食の重要性を指導している。学校では、子どもたちを「ルールを守り」、「自他の尊厳を守り」、「社会の出たときの人たちと協力してたくましく生きていく人間」に育てたいと考えている。

今後の取組

国語について、特に力を入れて取り組んだ内容については、その成果が現れている。作文では、短作文から段階的に時間をかけて取り組む必要がある。また、習熟度に応じた指導の検証を行い、さらなる充実をめざす。言語活動については、その充実を図ることにより、言語力や倫理的な思考能力をさらに育んでいく。また、漢字検定を活用し、言語についての知識・理解・技能のさらなる習得を図る。

数学では、習熟度別少人数授業において、羅列した計算問題はできても、問題文を読み取り、式を変形していく力が身についていないことが判明した。習熟度別少人数授業の検証を行い、その課題に向けて、重点的に取り組む必要がある。また、数学検定等の継続した実施や数学的活動と言語活動を関連付けた授業プランをより充実させていく必要がある。

理科では、生徒の興味・関心を引く教材を取り入れ、観察・実験等を重視した授業づくりを心がけてきた。実験に関係した設問では、その成果が現れている。今年度より始めた科学検定の継続した実施や、実験における言語についての知識・理解をさらに高める言語活動を充実させ、科学的な思考力や表現力を高める必要がある。